

# 国際協力

No.54 2018.1.1

JICA駒ヶ根

## JICAボランティア 家族連絡会を開催しました!

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(JICA駒ヶ根)では、毎年1回、青年海外協力隊長野県OB会と共催でJICAボランティア家族連絡会を開催しています。本年度は会場を駒ヶ根青年海外協力隊訓練所として11月19日(日)に開催しました。当日はボランティア家族24名をはじめ、OB会、来賓を含め総勢51名と多くの方にお集まりいただきました。



家族連絡会の目的は、ボランティアのご家族の方々が国際協力をより身近なものと感じて、長野県内の国際協力の支援者ひいてはJICAサポーターとなっていただくこと、また長野県内のJICA、OB会、協力隊を育てる会、長野県国際課等の関係機関の情報や意見交換の場となることも期待しております。

午前10時に開会し、初めにJICA駒ヶ根所長の清水よりJICA事務所の支援体制について説明がありました。

次に、「ご子息をたずねて」と題して、娘さんが派遣されている「ザンビア」や隣国を旅行された小平夢子隊員のご両親に、旅の体験談をお話いただきました。夢子さんは派遣されて1年しか経っておりませんが、ザンビアの人達とのやり取りを見て、たくましく成長したと、お母様は感じられたそうです。その後、青木和男元進路相談カウンセラーと渡邊希さん(平成22年度1次隊 派遣国:ニカラグア 職種:小学

校教諭)から、ボランティア参加後の就職についての講演がありました。昼食時には、派遣前の訓練生と同じメニューを食しながらの懇談会を実施しました。

午後の部は、ボランティア派遣地域ごとグループに分かれての懇談会を行いました。同じ年代の娘、息子を持つ親として、どこのグループでも同じようなお話や悩みなどが聞かれました。

実施後のアンケート結果からは、「娘の様子を見に、現地視察の旅を計画しようと考えております。」「隊員OBの方や職員の方、たくさんの方からお話を聞くことができて不安がなくなりました。」「楽しい雰囲気の中でお話ができ、親として共感できることが多くありました。」「などのご意見が聞かれました。また参加者の協力隊OBからは「派遣中の家族の思いを知ることができ、改めて送り出してくれた家族へ感謝の気持ちがこみ上げてきた。」との意見もありました。JICAボランティア事業はこのようご家族の皆さまに支えられていると改めて感じました。

来年度のボランティア家族連絡会は6月に、松本市での開催を予定しております。多くのご家族の皆さまにご参加いただきたいと思います。願っております。



ザンビアを訪れた小平さん



第24回みなこいワールドフェスタにおいて「おかげさまで2万人達成！ 駒ヶ根発JICAボランティア」特別ブースを出展いたしました。かつて訓練所で勤務していた方や、語学講師からお借りした訓練所開設当時から現在までの訓練生の集合写真を掲示し、昔の訓練所風景をスライドショーで流しました。また、以前訓練中に着用していた制服や体操服も展示し、昭和54年に開設してから訓練修了者が2万人に至る歩みを感じられるブースになりました。

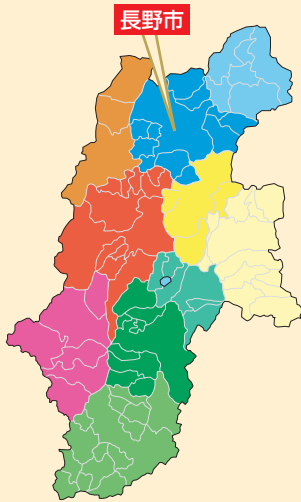
当日はあいにくの天気でしたが、訓練所ブースには地域にお住まいのJICAボランティア経験者の方々も多数お見えになり、自身の集合写真を見つけては、その当手を振り返っておりまして。

他にも、来年度より本部が駒ヶ根市へ移転する青年海外協力協会(JOCA)より各国の民芸品や、隊員活動パネルを展示したり、株式会社パークレーハウスの講師による語学教室の実施など、特別ブースにふさわしく駒ヶ根青年海外協力隊訓練所メンバーが一体となったブース展開となりました。



## シリーズ 世界から、地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員に聞きました！

今回は、現在長野県内の学校にお勤めのOBの方です！



長野市在住  
みさわ まさとし  
三澤 政俊さん

平成12年度1次隊  
派遣国：マーシャル  
職種：理数科教師  
出身：中野市



### Q1：協力隊員となったきっかけは？

青年海外協力隊員が途上国で現地の人々のみならず、様々な国籍の人々と活動している様子を、大学生のときにテレビ番組で見ました。設備等が不十分な中でも、アイデアで困難を乗り越えてゆく隊員の方々がとてもたくましく、輝いて見え、ぜひ自分も協力隊に入隊し、同じようがんばってみたいと強く感じました。



生徒達と一緒に

### Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

マーシャル諸島共和国の首都マジュロにある高校で、数学と物理の授業を担当していました。赴任直後は、毎日6時間の授業の準備が大変だったことを覚えています。そのころ、まだ英語力が不十分であった私は、毎日の授業の準備が深夜までかかりましたが、それも1カ月ほどで何とか慣れることができました。

休日には海に出て、マグロやカツオを釣ることもできました。マーシャルの人々は明るく、親切で、おおらかで、非常に楽しく2年間を過ごすことができました。



教壇に立っている三澤さん

### Q3：現在のお仕事について教えてください。

長野県中野立志館高等学校で理科の教員をしています。授業では物理を中心に担当し、クラブではスキー部の顧問をしております。中野立志館の生徒たちは勉強も部活も一生懸命がんばっています。特に運動系の部活動では、国内の大会のみならず、世界大会で活躍する生徒もいます。

### Q4：協力隊の経験は今どう生きていますか？

1年生が全員履修することになっている「産業社会と人間」という授業の主任をしています。この授業の中で、異文化理解やボランティアについて学ぶ単元があるのですが、そのときは、青年海外協力隊で学んだこと、感じたことを話しています。生徒たちの顔つきも、いつもの授業のときよりもとてもいいです。

駒ヶ根訓練所では、現在四半期に一度、2年間の活動を終えたJICAボランティアが帰国するタイミングで帰国報告会を開催しております。今回の発表者は平成27年度2次隊の長野県出身の隊員で、報告会当日は訓練生の他に、訓練所で研修を行っていた長野県内の高校生など46名の参加がありました。

発表者3名の皆さんは(下記)、派遣国の様子の他に、現地での活動の進め方や、活動が思った通りに進まないときの発想の切り替え方など、内容がギュッと詰まった発表をしてくれました。

※写真左から

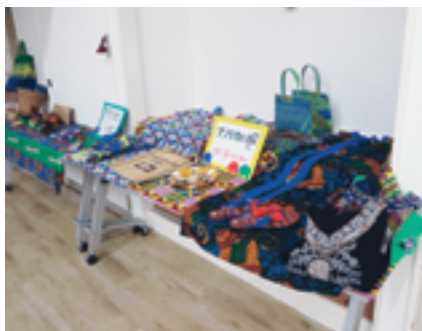
- ・宮下裕司さん(職種:PCインストラクター、派遣国:ガーナ)
- ・小野百恵さん(職種:野菜栽培、派遣国:ガボン共和国)
- ・菊池郁希さん(職種:看護師、派遣国:パラグアイ)

次回の帰国報告会は1月26(金)18:30~20:30にJICA駒ヶ根で実施します。長野県出身の青年海外協力隊経験者が、2名発表の予定です。

平日の夜ではありますが、OBの皆さん、協力隊に興味がある方など多くの方の参加をお待ちしております!



### 11/24 小野百恵さん「YOUは何しにアフリカ ガボンへ?」帰国報告会 in 山形村



アフリカの服の試着コーナー

11月24日、山形村農業者トレーニングセンターで、同村出身の協力隊員、小野百恵さんの報告会がありました。司会者は小野さんと同じガボン派遣の隊員だった丸山力矢さん(平成27年度1次隊 職種:PCインストラクター、派遣国:ガボン、松本市出身)が務められました。当日の参加者は総勢160名程で山形村村長本庄利昭氏を始め、村内外の老若男女が集まりました。報告会の内容は盛りだくさんで、小野さんからの活動報告の他、ガボンの小学校と山形小学校をつなぐためのスカイプ交流(校歌を発表し合いました)、バナナドーナツの試食(ガボンでは調理用のバナナが主流)、最後には和太鼓の演奏までありました!!帰国された後、故郷の村で開催された報告会は素敵でした。小野さん、丸山さんお疲れ様でした。

帰国されたOBの方々は、出前講座やボランティア説明会などでご自身の経験を日本や地域の皆さんに発表し、共有しましょう!

## 帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動  
お疲れ様でした!!



平成27年度2次隊

おの ももえ  
小野 百恵 さん

- 派遣国:ガボン共和国
- 職種:野菜栽培



現地食作り

私の活動してきたガボン共和国という国はアフリカ大陸の西海岸に位置し主に石油を売って外貨を得ています。そのため、農業や製造業、観光業などはほとんど発展していません。そこで私は、ガボンの農業を発展させるために野菜栽培の普及員として地方の小さな街に派遣されました。現地に行くと、農家さんたちは資金不足で農作業に必要な道具を十分にそろえることができませんでした。お金を稼がたくても仕事のない人も

たくさんいました。活動初期は人に会うたびにモノやお金の支援を求められましたが、現地で安く手に入るものを使う方法を考えたり、農業以外でも現金収入を得られるように工芸品の製作を提案したりして、できるだけ現地の人で自分の手でお金を稼げるように活動してきました。ガボンで暮らした2年間は、私も沢山の学びがありとても刺激的でした。例えば現地で主流の交通手段である乗り合いタクシーは、流しのタクシーを捕まえて直接値段交渉をして目的地まで向かいます。長野県で導入したら面白いし便利なのではないでしょうか?



ヤシの工芸品作り



野菜作りに灰を使う

# JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援

2017年度第2回中小企業海外展開支援事業で佐久市の株式会社エスポワールの提案が採択されました。

**案件名: 日本式介護学校と介護センターの一体型運営モデルの案件化調査**

**対象国: ベトナム**

JICA駒ヶ根では、同社に続き多くの県内企業が中小企業海外展開支援事業を活用いただける様、今後も県内各地でのセミナーや個別相談を実施してまいります。途上国の進出にご関心のある県内企業、お気軽にご相談ください。

## JICA 中小企業海外展開支援事業の県内企業採択実績

会社名	所在地	実施国	実施内容
松山株式会社	上田市	ラオス	代かき機など農業用作業機械の現地生産・販売の可能性調査
株式会社信州セラミックス	大桑村	ベトナム	院内感染予防に向けた医療用抗菌システム普及案件化調査
株式会社ジャパンバイオフィーム	伊那市	ザンビア	土壌分析に基づき鶏ふん化成混合肥料を使用する農業技術の普及・実証事業
株式会社細川製作所	安曇野市	ウガンダ	農村部の所得向上を目的としたコメ用石抜き機導入の案件化調査
エフビー介護サービス株式会社	佐久市	タイ	介護施設運営・福祉用具・人材育成事業の有効性、採算性調査
オリオン機械株式会社	須坂市	タイ	自動洗浄機能付き搾乳システムによる品質向上に関する普及・実証事業
キャストリア株式会社	長野市	ケニア	初等・中等教育における初学者向けプログラミング教育に関する基礎調査

## 草の根技術協力事業

### フィリピン農業大臣が南牧村を視察

JICA草の根技術協力事業「安全野菜生産販売技術改善プロジェクト」(提案自治体: 南牧村 実施団体: (公社)国際農業者交流協会)の本邦研修にフィリピン農業大臣のエマニュエルF. ピニョール氏や副大臣らが同行、視察しました。大臣達はあいにくの小雨の中、

南牧村の高原レタス畑で収穫および、畑での梱包作業を体験しました。ピニョール氏はフィリピン国初の農家出身の農業大臣ということもあり、うるち米圃



フィリピン農業副大臣レタス収穫

場では自らコンバインを運転したり、収穫量を質問していました。この事業は2019年度まで続き、フィリピン国の農産物生産と流通改善を目指します。

## JICA長野デスクの窓から♪

ヒマラヤに思いを寄せて…



ブータンの聳学校で、教え子たちと

長野デスクの国際協力推進員、榎本です。このコーナー記事を書くのも11回目となりました。

私は2011年から2年間、ヒマラヤ山脈に位置するブータン王国に、青年海外協力隊として派遣されていました。ブータン

＝幸福の国ですが、帰国してから「本当に幸福なの？」という質問を、幾度となく投げかけられています。2年間暮らす中で、それが少しだけ分かった気がしていますが、長くなるので今は内緒です！笑

ブータンでの生活は不便で辛いことも多かったですが、山奥の寒村で耳の聞こえない子どもたちと過ごした時間

は人生の宝です。モノやお金がなくても幸せだと感じられる感性、人の幸福を祈ることができる心の広さ、すべてを包み込むおおらかさが、そこには確かにありました。

今回、信州国際塾では「ヒマラヤ映画祭」と題し、ブータンとネパールの映画を上映します。ヒマラヤでたくましく生きる人々から、ほんとうの豊かさを一緒に考えていきましょう。

ちなみに、パンフレットの表紙の写真、私が撮影したんですよ！正面左がエベレストです。

上映は1月下旬、寒い中ですが、その気候がまたヒマラヤっぽくないですか？ぜひお越しください！



パンフ表紙写真。ブータン－ネパールの航空路線は、世界一の眺望です！

- 2018年1月21日(日) 13:00～17:15  
長野市勤労者女性会館しなのき、入場無料  
詳細はJICA駒ヶ根HPにて！



こんにちは。私が活動しているミアリナリブ市はマダガスカルの中央に位置し、標高は約1300m。夏は涼しく過ごしやすく、冬は風が冷たく厚手の長袖が必要なくらい寒く、位置的にも気候的にも雪は降りませんが長野に似ているかなと思います。人は、恥ずかしがり屋が多く、背丈も顔だちもアフリカンというより、アジアの人に近く、親しみやすいです。家は、電気ガス水道がない家庭が多く、灯りはロウソク、煮炊きは薪か炭、水は井戸か川で汲んで使っています。



赤ちゃんの体重測定中

私は郡の保健局に配属されており、病院や学校、地域の妊婦・乳幼児の管理をしている施設へ訪問し、手洗い

や歯磨き指導、乳幼児の体重測定や予防接種の補助などを行っています。

マダガスカルでは、手洗いなどの衛生習慣が定着していないため、学校で手洗いや歯磨きの授業を行います。お金がなくて歯ブラシを買えない子どもが多いため、糸や枝を使ったお金のかわらないもので代わりになるものを考えて、子供たちに教えたりしています。また、妊婦や子供を持つ母親に栄養が取れる料理のデモンストレーションをしています。



小学校で糸を使った歯磨きの授業

子供に中国人とからかわれ授業が進まなかったり、赤ちゃんを抱っこして大泣きされ体重が測れなかったり、料理を教えても作ってくれなかったり、上手くいかないことも多いですが、少しずつ声をかけてくれる人が増え、助けてくれる人達のおかげで楽しく活動ができています。やりたいことは多いけど出来ることは少なく、毎日葛藤ばかりですが、日本にいたら経験できないことや様々な感情をマダガスカルで体験しながら、少しでも多くの人々が健康で生活できる手伝いを残り7か月も続けたいと思います。

## イベント・レポート Event Report

11/25 11/26

## 国際理解教育指導者 セミナーを開催しました!

11月25-26日、長野県総合教育センターで、2017年JICA駒ヶ根 国際理解教育指導者セミナーが開催されました。

今年度は、延べ31名がご参加いただき、講師には昨年度と同じくNIED・国際理解教育センターの伊沢令子先生にお出で頂きました。セミナー1日目は、「場づくり」と「関係づくり」と題して、新しく知り合った仲間と協力してグループワークをする様々な手法を学び、「スキル・トレーニング」のアクティビティを実施しました。夜の懇親会では、それぞれの参加者の国際理解教育への思いを共有したり、意見を交換する時間が夜遅くまで続きました。2日目は、環境問題を身近に感じるワークショップを行い、今注目を集めているSDGsに関するアプローチを学びました。

「参加型の手法を体験を通して学ぶことができ、さっそく学校で試してみたら、生徒はとても楽しそうだった」という感想もいただきました。

来年度も、皆様のご要望に応じたセミナーを開催したいと考えております。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



## 信州グローバルセミナー2017を開催しました!



12月17日信州グローバルセミナー2017が、講師の方を含めて100人余りの方々にご参加いただき、駒ヶ根訓練所で開催されました。今年のテーマはSDGs! 「人づくり(教育)」を軸に、県内でグローバルな視野を持って活躍する方々の講座を開催しました。午前中、「SDGsって何?」という講座に続いて、長野県内で、スーパーグローバルハイスクールに指定されている長野高校、上田高校の生徒さんによる課題研究の発表がありました。お昼にはセネガル料理ヤッサブレを食べながら、参加者同士が交流し、希望者による訓練所見学ツアーがありました。午後は以下の分科会3つに参加しました。

分科会1「満蒙開拓の史実から学ぶもの～長野県から満州へ渡った人々」 満蒙開拓平和記念館 副館長 寺沢秀文氏

分科会2「先生が変われば生徒も変わる～JICA教師海外研修実践授業報告」

長野市立鬼無里中学校 新井秀和教諭、安曇野市立豊科南中学校 浅原規貴教諭、

上田高校 小林まゆ子教諭、長野県教育委員会 柳沢忠男指導主事

分科会3「日本人、どうして英語をしゃべれない?～知識の英語から使える英語へマインドリセット」

(株)エー・トュー・ゼット代表取締役 マキナリー浩子氏、長野県国際化協会 納富エジナ蓬氏

今年も多くの皆さまにご参加いただきありがとうございました。

# Information

## 派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

### ▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要  
1月15日(月) 15:10～16:00  
定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

### ▶ 局長講話

内容：JICAボランティア事業の理念と目標  
1月18日(木) 15:10～16:00  
定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 局長

### ▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。  
1月27日(土) 15:10～17:00  
定員：50名 講師：桑山紀彦氏(地球のステージ代表理事)

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

### ▶ 映画「クロスロード」上映会

内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田(黒木啓司)は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…  
2月5日(月) 19:10～21:00  
定員：20名

### ▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。  
2月7日(水) 15:10～17:00  
定員：10名 講師：廣野良吉氏(成蹊大学 名誉教授)

### ▶ 異文化適応概論

内容：文化とは何か、異文化理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化についてにあたっての心構えを説く。  
2月19日(月) 15:10～17:00  
定員：10名 講師：関谷雄一氏(東京大学大学院 総合文化研究科 准教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。

ホームページ <https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

## 2017年度3次隊(8名) 長野県出身新ボランティア

行ってきます!!

かわはら あやか  
**河原 礼佳** さん(長野市) 派遣国：モンゴル  
職種：料理  
世界で4番目に大きい砂漠の近く、ドンドゴビ県の学校に料理の先生として派遣されます。中学生の頃からの夢であった協力隊、精一杯活動し、異文化に触れ、人生の中で貴重な2年間にしたいです！頑張ります！

みやさか あや  
**宮坂 綾** さん(茅野市) 派遣国：スリランカ  
職種：環境教育  
地域住民や学生を対象に、ごみの分別指導などを行います。現地の方々に寄り添い共に行動する中で、学びあい、助け合える関係を築きたいです。また、日本社会や長野の方々に協力隊の経験を還元できるよう尽力します。

ひたち りな  
**日達 理奈** さん(原村) 派遣国：スリランカ  
職種：環境教育  
スリランカのコロンボ市で、環境教育を行います。地域の人々や子供たちと一緒に、ごみの減量や街の美化について考え、活動したいと考えています。協力隊に参加するという夢を理解し応援してくれた皆さんに、経験を還元できるよう2年間頑張ります。

わかばやし りさ  
**若林 梨沙** さん(長野市) 派遣国：モルディブ  
職種：体育  
モルディブの学校で、子どもたちに体育を教え、教員に指導方法を教えます。さらにモルディブでの体育教科の発展と定着を目指します。教育を通して、たくさん子どもたちと関わっていききたいです!!

なかやま みく  
**中山 未来** さん(小諸市) 派遣国：キリバス  
職種：看護師  
協力隊に参加し、途上国の医療に関わることが私の中学生の時から夢でした。これから2年間、キリバスで糖尿病の看護に関わっていきます。これを機会に皆さんにキリバスを是非知ってもらいたいです。

まちだ ゆうり  
**町田 有里** さん(茅野市) 派遣国：ドミニカ共和国  
職種：助産師  
ラベガ市の病院で妊婦さんや子どもたちの保健指導や健康教育を行います。現地で実際の生活や文化に触れ配属先のスタッフと協力して人々のニーズに沿った活動を行いたいです。2年間楽しみながら頑張ります。

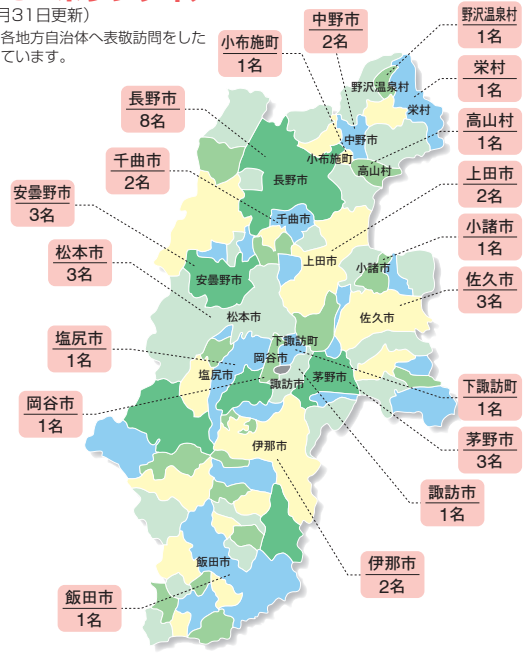
ふじさわ  
**藤澤ちはる** さん(長野市) 派遣国：エクアドル  
職種：高齢者介護  
年齢、語学面での不安があり何年も悩んでいましたが、今やらなかつたら絶対後悔すると応募しました。看護師になって10年、自分の力がどれだけ役に立ってるか不明です。ここまで多くの人々に助けて貰いましたが、今度は私が任国の目の前に居る方のために尽くしたいです。

くまがい たかゆき  
**熊谷 孝幸** さん(飯田市) 派遣国：マーシャル  
職種：木工  
大工としての経験を活かして、伝統カヌー作成や木工を通し、中退した若者達の職業訓練の指導に当たります。建築現場で培った経験と技術、知識を存分に発揮し、作成の喜びを伝えられたらと思います。

### 派遣中JICAボランティア

(平成29年10月31日更新)

※過去2年間に各地方自治体へ表敬訪問をした人数を表示しています。



### 長野県出身者 JICAボランティア派遣実績

平成29年10月31日現在

① 青年海外協力隊員	派遣中 34名 累計 1001名	③ 日系社会青年ボランティア	派遣中 3名 累計 27名
② シニア海外ボランティア	派遣中 1名 累計 79名	④ 日系社会シニアボランティア	派遣中 0名 累計 5名

青年海外協力隊

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!  
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン  
☑ 配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。